

第3回西北地区統合校開設準備委員会における主な意見

1 校名案の方向性について

【各委員からの意見】

① 県民等から提案のあった校名案候補（津軽高校）の取扱いについて

- 県民から寄せられた貴重な意見だと思うが、委員から「津軽中央高等学校」という、「津軽」のネーミングの付いた校名案候補が提案されている。また、津軽高校というと、閉校になった岩木高校の前身に当たる高校の校名である。これらを勘案して、「津軽高等学校」という名称を候補とせず、「津軽中央高等学校」と同様と解釈し検討を進めてはどうか。

② 校名案候補の絞り込みについて

ア 位置に着目したグループ

北五中央高等学校

- 提案理由で「今回の統合は北津軽郡と五所川原市の高校の対等統合である」という点が挙げられていること、また、県民等への意見募集結果では、「板柳、鶴田、金木を含めた北五という名称が良いと考える。」、「統合校の名称については、統合前の校名にこだわらず、新しいイメージを抱けるものが良い。」という意見があり、統合に際して新しいイメージを県民に抱いていただけるのが良い。
- 今回の高校再編に当たっては、吸収統合ではなく、鶴田高校、板柳高校、金木高校と五所川原工業高校が一緒になって、新しい学校を作るという意味合いが強い。4校の統合を考えると、より親しみやすい校名である。

五所川原南高等学校

- 位置に着目するということであれば、五所川原市の南にある学校ということで、「五所川原南高等学校」を支持する。
- どこに所在するのかということがシンプルに分かりやすい。
- 本県の県立学校の校名は高校が立地する場所の地名や方角が付いており、近隣では弘前南高校や青森南高校がある。これらの地域の中学生は、この校名に非常に親しんでいると考えられ、西北地区の中学生にも同様に親しんでもらえると思う。
- シンプルに、現在の五所川原工業高校が五所川原市の南の地域にあるということで、「五所川原南高等学校」が良い。住民にとっても分かりやすい。
- あえてこの中から選ばせていただければ、「五所川原南高等学校」が良い。

津軽中央高等学校

- 今後、北五地域には、統合校のほか、五所川原高校、五所川原農林高校が残ることとなり、統合校には西津軽郡の生徒も入学するだろう。そのことを考慮すると、より大きな範囲で考えて「津軽中央高等学校」が良い。津軽という地名は県外でも知られているので良い。
- 津軽という地名は、全国でも知られているので良い。
- 青森県、日本、世界を見据えたときには、津軽という地名はブランド化していると思う。このような観点から、津軽地域の中央にある高校ということで、「津軽中央高等学校」が良い。

- 津軽というと、弘前市や青森市だけでなく、東津軽郡も全て含まれるため、あまりに広大な感じもするが、様々考えると「津軽中央高等学校」が良い。

イ 専門学科に着目したグループ

五所川原工科高等学校

- 五所川原市内には、五所川原農林高校という学校もある。工業科がある五所川原工業高校に普通科が加わるということで、ふさわしいと考える。
- 「工」の字がついていて、5クラスのうち工業科が過半数を占めることが分かりやすい上に、工業科だけではないという印象が少し強いということで、「五所川原工科高等学校」を推薦する。
- 保護者等にとって、統合校は工業科が中心だということを分かりやすくする必要があるのである。統合校では、工業のイメージを出す必要がありつつも吸収統合ではないことを考慮すると、「五所川原工科高等学校」が良い。
- 今回の統合により、板柳高校、金木高校、鶴田高校、五所川原工業高校の4校が同時に閉校することとなっており、閉校前に統合校が開校することとなっているので、ここは「五所川原工科高等学校」という校名で収めて、五所川原工業高校で培ってきた就職等の進路希望を達成する様々なノウハウを引き継いでいけば良い。
- 私の意見としては、その他校名案候補に関する意見にある、「『五所川原工業高等学校』の校名をそのまま使用してほしいと思うものの、新設する統合校としてはどうかと考えさせられる。各々の案を尊重しながらも、工業の『工』を入れていただきたい」というものである。したがって、この中で「工」が入っている「五所川原工科高等学校」を選ばせていただく。
- 「工」という字を付すことで、今までの企業等とのつながりを再構築できれば良いという思いから「五所川原工科高等学校」を支持したい。

五所川原工業高等学校

- 意見なし

五所川原実業高等学校

- 県民等への意見募集結果には「工業だと非常に狭義な印象を受けるので、より広義の実業という名称がふさわしい。」とある。工業や工科では、一方の学科だけが前面に出ており、統合にふさわしい校名は、やはり両者を勘案した実業である。なお、校名に実業を冠している普通科を持つ高校としては、早稲田実業高校、鹿児島実業高校に加え、旭川実業高校が実在している。また、実業高校は一般的に部活動にも力を入れているイメージがあり、今後の学科の方向性を見据え、様々な広がりに対応できる校名である。
- 県民等への意見募集結果にもあるとおり、将来の学校の方向性に対し、全てにおいて柔軟に対応できる校名だと思う。
- 「五所川原実業高校」を支持する。「工」という字が入ってしまうと、普通科が埋没してしまう気がする。これまで農業高校に普通科が設置されていた例があり、私も同校に勤務した経験があるが、私も含め多くの人が普通科があったということを知らなかったため、同窓生がかわいそうだと思った経験がある。したがって、この統合校はいかに

普通科の生徒に来てもらうかを考える必要がある。そのような中で普通科が埋没しそうな校名はふさわしくないと考える。

- 提案理由に「実業には専門学科のみというイメージがあるが、全国的に見れば進学等に力を入れている普通科のある学校もある。」と記載されており、このグループの中から選ぶ際には、やはり実業が新しい学校のスタートに一番ふさわしい。

五所川原総合高等学校

- 意見なし

ウ 理念に着目したグループ

五所川原志学館高等学校

- 子どもたちにとって、「志」や「学ぶ」という文字が校名に付されていると夢があるような感じがするし、地名も入っている。志学館というと私立学校にも同様の校名があるが、五所川原志学館というのは響きが良い。また、校訓等にも引用できるような印象があるため推薦したい。
- 県立高校ではあまり聞かない名前ではあるが、「志」という文字が付されており、選ぶとすれば「五所川原志学館高等学校」としたい。
- 「志」という文字が入っていること、響きが非常に良い。
- 子どもたちには様々な将来的な夢や思いがあるだろう。それは工業分野や商業分野であったり、あるいは普通科からは看護、医療、福祉の分野にも広がっていく。生徒それぞれの志があれば良いと思っている。

五所川原統合高等学校

- 統合の2文字が入ることによって、統合の対象となった4校に、この校名を見た方、聞いた方の思考が及ぶのではないかと考えている。また、その4校が統合になったという点から、統合校には、工業科や普通科が引き継がれていることが想像できると考えている。
- ここでいう理念とは、新しい学校をつくるための理念ではなく、統合の理念と解釈をしており、金木高校、板柳高校、鶴田高校、五所川原工業高校の4つが統合するということが理念だと思う。これを踏まえると、単純に「五所川原統合高等学校」が良い。

地域創生高等学校

- 支持する理由としては、理念そのものが校名に出ていると考えたからである。
- 高校の統合で地域が衰退する中であっても、統合校として、地域を活性化していただきたいという願いを込めて、この校名を支持する。

(意見等記入票における意見)

- 設置学科が表に出ない新しい校名にするべきである。その理由は、4校が同時に閉校し、統合という形で新設校ができるということが、地域住民や中学生に十分理解されていないと思われるからである。現状は、板柳高校・金木高校・鶴田高校が閉校し、五所川原工業高校に新たに普通科が2クラス開設されるという認識ではないだろうか。生徒間に工業科が主流で普通科が非主流という認識が生じることが懸念される。普通科を志望する生徒が志願しやすい校名を望む。

【開設準備委員会における意見（まとめ）】

- 位置に着目したグループからは「五所川原南高等学校」、「津軽中央高等学校」、専門学科に着目したグループからは「五所川原工科高等学校」、「五所川原実業高等学校」、理念に着目したグループからは「五所川原志学館高等学校」の5案を西北地区統合校の校名案候補とする。

2 校訓・校章・校歌・制服の方向性について

【各委員からの意見】

① 校訓及び学校標語の方向性

- 五所川原工業高校には校訓がないため、新しいものを制定して良い。その際の決め方も様々あると思うが、例えば、「誠実」という言葉は、五所川原工業高校の校歌に「まこと」で入っており、他の3校の校訓となっている。このような擦り合わせをすれば決められる。
- 校訓については、五所川原工業高校も統合になるため、共通しているものは生かしつつ、新たに制定すれば良い。
- 校訓はいらないと思う。学校標語のようなものがあれば良いのではないか。五所川原工業高校を校内見学した際、目に入ったのが「全校一体大家族」という学校標語であった。企業等でも様々な倫理や道徳を掲げているが、様々なフォーラムに出席すると、利他の心、思いやり、人のために尽くすといったものをテーマにしているものが非常に多い。このようなことは、統合校においても一番大事なことである。
- 校訓をワーキンググループや開設準備室で検討するのであれば、学校標語も併せて検討する方向で進めた方が良い。

② 校章の方向性

- 校章だけは五所川原工業高校のものから変えないでいただきたい。例えば令和3年度るとき、五所川原工業高校の2年生、3年生が在籍しており、その生徒たちは現在の校章を付けて様々な場面に出ていく。このような中で、校章が2つあるのは違和感がある。五所川原工業高校の2年生、3年生が在籍している間の校章の取扱い等々についても考えていただきたい。
- 五所川原工業高校の校章は、球の上に「工」の字を置き、その上に高校の「高」を組み合わせたものである。ドイツのフレーベルという教育学者が「人間の教育」という著書において、球体の法則について、多様性を持った者同士であっても、最終的には一つにまとまっていくと主張している。このような意味で統合対象校の4校の思いが一つにまとまり、既存の校章にある丸みを帯びた球として引き継いでいくという方向でも良いのではないか。そして、工業を意味する「工」の字は、解釈を別にして学問と捉え、普通科で学ぶ学問、工業科で学ぶ技術、これらの厳しさや鋭さと解釈をすれば、これはまさしく統合校の象徴として十分ふさわしく、入学してくる生徒や学校関係者が誇れる校章である。
- 校章は五所川原工業高校のものを引き継いでも良いと思っている。校章に関しては、五所川原工業高校が大事にしてきた理念があるということが分かった。校章はこのままで良いと思っているが、統合に際しての理念を付け加えていただければありがたい。

- 五所川原工業高校の校章は、どう見ても工業の「工」に見えるが、先ほど絞り込んだ校名候補の5つの中から、例えば「五所川原工科高等学校」が選ばれたとすれば校章はこのままで良いと思う。一方で、別の校名になった場合、校名に「工」は入らないので、一新した方が良いと感じる。
- 統合対象校4校が断腸の思いで閉校するものであり、どの学校にも歴史があり校章がある。統合校のスタートをスムーズにするには、校章も変えるべきである。
- 新たに制定すべきである。制定に当たっては、ただ単にデザイナーに任せるのではなく、統合対象校4校に共通する岩木山と岩木川をデザインに加えながら制定すれば良いと思っていた。今回、五所川原工業高校の校章制定に至った理念等も伺ったため、岩木山、岩木川や、球体という理念を取り入れながら、新しく制定してはどうか。
- 新しく制定する方が良い。制定方法は分からないが、デザインに取り入れてほしい観点や視点を示すことで、委員の意見が生かされると思う。ただし、新しく制定するのであれば、子どもたち自身が良いと思えるような、校章、校歌、制服であってほしい。
- 4校統合であり、校歌、制服と併せて、当然校章も変えるべきである。新しい学校になるため、校名だけでなく校章も変わっていくのが当然ではないか。鶴田町では、小学校6校を統合して1校となる。校名は鶴田小学校に決まったが、校名以外は全て変えた。このようなこともあるので、西北地区統合校においても変えるべきであると思う。
- 校歌、制服、校章については、新設校だから新たに制定するのが一番良いのではないか。既存の校章を使うという意見を尊重しつつも、統合校であるから新たな校章を望みたい。
- 変えた方が良い。統合校の生徒の校章は新しいもの、五所川原工業高校の2年生、3年生は既存のものとしても、それほど違和感はないと思う。校章については、各校の思いを汲み取れるようなデザインをデザイナーに委託した方が良い。校章だけは残し、それ以外は変えるというのは、逆に不自然である。統合校では工業科の学級数が多いことを考慮しながら新たなデザインで校章を制定すれば良い。

③ 校歌の方向性

- 変えた方が良い。式典等の行事を考えると、校章よりも校歌が一番影響あると思うが、統合してから数年間は行事によって使い分けをし、統合から2、3年経過すれば不自然さは解消される。
- 校歌については、校名が変わるのであれば変わって当然だと思う。
- 4校の高校を1つに統合するためには、やはり校章や校歌、制服は新しくせざるを得ない。
- 新しく制定するのであれば、子どもたち自身が良いと思えるような、校章、校歌、制服であってほしい。(再掲)
- 4校統合であり、校歌、制服と併せて、当然校章も変えるべきである。(再掲)
- 校歌、制服、校章については、新設校だから新たに制定するのが一番良いのではないか。(再掲)

④ 制服の方向性

- 制服は五所川原工業高校のものを引き継いでも良いと思っている。経済的に困っている保護者の方もいる中で、制服を一新してしまうと、多くの家庭では制服のスペアも用意したいと思うが、その際に兄弟や卒業生から譲り受けるということができなくなる。

- 変えた方が良い。制服については、中学校でも制服を変更した場合、1年生は新しい制服、2、3年生は既存の制服を着用することはある。
- 統合校の新入生は、制服等を一新することで気持ちを一新し、自分たちが歴史や伝統を築いていくという気概を持って教育活動に取り組んでもらい、そして、同時に在籍する先輩たちは五所川原工業高校の生徒として、統合校の生徒と接して切磋琢磨していくことが望まれる。
- 新しく制定するのであれば、子どもたち自身が良いと思えるような、校章、校歌、制服であってほしい。(再掲)
- 4校統合であり、校歌、制服と併せて、当然校章も変えるべきである。(再掲)
- 校歌、制服、校章については、新設校だから新たに制定するのが一番良いのではないか。(再掲)
- 4校の高校を1つに統合するためには、やはり校章や校歌、制服は新しくせざるを得ない。(再掲)

(意見等記入票における意見)

- 校名や新設校の目指す人財像を考慮しながら、全て新しくするべきである。
- 校訓を制定しないで「学校標語」または「教育目標」を掲げたらいいと思う。いつの世も「利他の心」に立って判断すべきである。「利他の心」に立てば、周りの人やみんなが協力し、視野も広がるので、正しい判断ができる。
- 統合なので新たな校章を制定する。制作方法は公募またはデザイナー等への委託が考えられる。「既存の校章を使用すること」を尊重したいが、統合校となるので新たに制定すべき。
- 校歌は公募または学校関係者による制作により新たに制定する。また、制服については新たな学校であることを地域の人が理解できるので、新たなデザインとした方が良い。

【開設準備委員会における意見(まとめ)】

- 校訓及び学校標語については統合対象校の4校の校訓等を参考にしながら、ワーキンググループや開設準備室において新たに制定する方向で検討を進めてもらいたい。
- ※ 校章・校歌・制服の方向性については、第3回委員会における意見を事務局で整理し、第4回委員会において再度検討することとした。

3 統合対象校の記念物品の展示について

【各委員からの意見】

- 五所川原工業高校の校舎は改築されたため、現在、空き教室等はない状態である。統合を見据え普通科の教室棟の改修計画も進んでいるが、統合対象校4校分の記念物品の量を考えると、展示できるような適当な場所が見つからないのが現状であり、更なる検討が必要である。
- 各校の記念物品の量はかなり多く、統合校への収納は厳しいものがある。また、同窓生等のことも考えると、例えば記念物品の一部を地元の施設を間借りして展示するという方法は考えられないか。
- 統合対象校の校舎が残るのであれば、その一角を記念物品の展示に使用することもできるだろう。しかし、校舎が最終的にどうなるのかは県が判断するものである。町の空き校舎にお金をかけて様々なことができるかということ、非常に厳しいところもあり何とも言えない。各学校にある記念物品を全て五所川原工業高校の校舎に展示するのは当然無理であり、各学校でも統合校に展示してほしい物品を精査する必要がある。
- 記念物品の展示について、我々同窓生からするとやはり地元に残したい。それが我々にとって価値のあることだと思う。

(意見等記入票における意見)

- それぞれの地区で展示できるよう方向性を出してもらいたい(各地区で対応がバラバラにならない方が良い)。
- 同窓生の心情を察するに、記念物品は多く残したいものであるが、管理する場所の問題もあり、最低限に留める必要があるのではないか。ただし、地元で展示できる施設があれば、残す記念物品の数量も変わってくる。
- 板柳高校は創立80年余になる歴史のある高校である。記念物品を板柳町に残してこそ、町民にとっても、同窓生にとっても価値がある。高校がなくなり、私たちの宝物まで町外に持ち出されるのは正直寂しく、町民にとっても抵抗があると思う。
展示する場所は決まっていないが、「今後の本校の跡地の活用」とも関連してくると思うので、少しでも早めに方向性を示していただければ幸いである。

【開設準備委員会における意見(まとめ)】

- 各市町における受入場所が限られていることも踏まえながら、開設準備室において展示内容等について更に検討を進めてもらいたい。

4 統合対象校の事務の引継ぎについて

【各委員からの意見】

- 各校では、指導要録を過去20年分保存しており、文書は保存年限に応じて10年以上保存されているものもある。記念物品と併せて、それらの文書が統合校の校舎に搬入されることとなる。金庫を新たに置く場所の確保等が厳しいため、各校の文書量がどの程度になるのか、金庫はいくつ必要になるのかといった点について、文書を実際に移すまでに検討していく必要がある。

【開設準備委員会における意見（まとめ）】

- 統合対象校、統合校及び県教育委員会が連携を図りながら、事務手続を進めてもらいたい。

5 その他

【各委員からの意見】

（意見等記入票における意見）

- 金木地区の活性化のために、閉校後に校舎の扱いをどうするか決めるのではなく、閉校前から議論を進めていただきたい。